

学生コミュニティが果たす初年次教育の役割 —コロナ禍で新入生を支援した学生自治会の事例—

垣花 渉

石川県立看護大学

Important Role of Students Community for First Year Experience at University and College: Supported by a Student's Self-Government Association for Freshman during COVID-19 Pandemic

Wataru KAKIHANA

Ishikawa Prefectural Nursing University

1. 本学の状況

石川県立看護大学(以後、本学)は、看護学を専攻する学生が1学年80名の小規模な単科大学である。新型コロナウイルスの感染拡大が現れ始めた3月以降、本学でも2020年度入学生を受け入れる体制は、大幅な変更を余儀なくされた。規模を縮小して入学式とガイダンスを行ったのち、新入生はゴールデンウィークが明けるまで自宅待機を告げられた。ガイダンスで新入生が受け取った情報は、①学内情報システムの使い方、②授業科目の登録方法、③新型コロナウイルスの感染症対策のみであった。新入生にとって決意を新たに大学生としてのスタートを切るには、あまりにも不十分なものであった。一方、学生支援の窓口となる教員サイド(学生委員会)では熟慮のうえでのガイダンス実施であった。

2. 新入生支援に起ちあがった学生自治会

例年、本学でも新入生を上級生が迎え入れる雰囲気はにぎやか、かつ微笑ましい。キャンパスツアー、サークル勧誘、歓迎会、新生活への相談窓口など大学ならではの課外活動をとおして、新入生は少しずつ大学生らしくなっていく。それらがすべて、突然なくなってしまった。授業の開始がいつになるのか見通しが見えない混乱のなか、4月半ばに学生自治会は「新入生の支援に起ちあがりたい」という趣旨の提案を学生委員会へ持ち掛けた。学生自治会の新入生への思いを感じ取った学生委員会は、大学が行った支援の内容(コロナ禍での行動規範の教示、クラス担任による体調の把握、インターネット環境の整備、およびオンライン授業のための研修会の提供)を伝えた。その後、学生委員会は、学生たちの意見に真摯に耳を傾け、学生たちの考えを最大限に尊重し、教員サイドができる支援を伝えた。学生自治会は、メールやLINEで意見交換を重ねた結果、大学の施設を紹介する動画の作成、およびビデオ会議システム(Zoom)を用いた「上級生からのメッセージ」の企

画を打ち出した。企画の洗練，役割分担，事前準備，および実施などすべての活動プロセスを学生自治会は自主的に行った。教員サイドは，支援を最小限にとどめ，むしろ静かに見守る役に徹した。新入生が入学当初にもつ新生活への不安や悩みへ上級生が寄り添う“こころの支援”は，遠隔での授業が始まった5月中旬まで続けられた。ここで，このような支援を中心的に展開した学生自治会のリーダー，および支援を受けた新入生に当時を振り返っていただく。

3. 学生リーダーの声

学業，友人，大学生活などの新入生がもつ不安を早く解消してあげたいと考えました。その理由は，自分が新入生の頃，上級生の声掛けに励まされ，学生生活をやれそうという見通しが立った経験からです。私は，最上級生として現・前自治会長へ連絡をとり，協力の依頼をしました。二人から賛同の返事をいただき，支援の具体的な方法を話し合いました。大学生の生活をイメージできるように，学生の視点で大学の施設を紹介する動画の作成を決めました。その案を自治会担当の先生方へ持ち掛け，新入生からの要望を聞くことができました。要望を受けて再び自治会長や先生方へ相談し，①在校生から新入生への歓迎メッセージ，②サークル紹介と自治会紹介，③一人暮らしへのアドバイス，④授業課題への取り組み方，⑤レポートの書き方の5点を，2回に分けて Zoom により情報発信することを決めました。情報発信にあたっては，紋切り型のアドバイスではなく，学生の視点で発信しようということを決めて自治会チームで意識して行いました。一人暮らしのコツやレポート・課題の取り組み方を学生目線で伝えることで，石川県立看護大学の学生になったという雰囲気を届けたいと考えました。(以上，元自治会長・4年 立田寛明)

私は，自治会長の立場で情報発信を担当するにあたり，先輩方と内容を練り助言をいただきながら，また同級生の協力を仰ぎながら準備を進めました。さらに，先輩方から提案いただき自治会のメーリングリストを新たに作成し，いつでも新入生をサポートできる体制を整えました。サークル紹介では，自宅待機が明けてすぐに楽しく活動できるよう，具体的な活動内容を伝えることに配慮しました。実施後，新入生から私たちへたくさんの質問や意見が寄せられ，新入生にとって貴重な機会を提供できたことを実感しました。先輩と新入生との交流会では，新入生のリクエストをもとに，学校生活や下宿生活，テスト勉強の仕方やレポートの書き方を新入生が上級生へ質問したり，新入生同士で会話したりできるような内容にしました。これまでにはなかった交流会を企画・実施することができました。ネット上では大勢の人が一度に話すことは難しく，話しづらいことも予想されたため，事前に話題の焦点を絞ったり，話しやすい環境をどのように作るかを打ち合わせたりしました。その結果，参加者みんながスムーズに話せるような機会を提供することができました。インターネットを介した交流は，ネットの環境に影響を受けたり，相手の反応がわかりづらかったりすることもあります。工夫次第で交流したり楽しんだりすることができることを発見しました。「実際に会うことが出来ないから何もしない」のではなく，「困難な状況で何ができるのか」「どうしたら少しでもやりたいことを実現できるのか」を考えることで，新しい方法や可能性を見出すことにつながると感じました。(以上，現自治会長・2年 田中佑佳)

4. 新入生の感想

私は大学入学と同時に、人生初の一人暮らしを始めました。4月からの大学生活を楽しみにしていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で大学へ行けず、友達もできないまま、一人で不安な日々を送っていました。そんな時に、先輩方が私たち新入生に対して、Zoomを使って歓迎メッセージや学生生活の過ごし方を伝えてくださいました。私はこのような先輩方のご支援のおかげで、先が見えない大学生活に対する不安を解消することができました。ご支援してくださった先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。(以上、1年 時国玲羅)

5. 学生との協働による初年次教育の推進

初年次教育が取り扱う内容は、スタディ・スキル(レポートの書き方、文献の探し方など)、およびステューデント・スキル(時間管理や学習習慣、健康管理など)といった学習面や社会面への支援から、課外活動、友人関係、教職員との関係、ボランティア活動、地域社会での活動といった“経験からの学び”の支援まできわめて多岐にわたる。そして、前者の支援は教職員の果たす役割が大きいものに対して、後者の支援はむしろ同級生または上級生など学生コミュニティの果たす役割が大きい。なぜなら、“経験からの学び”の支援は学生の主体性をとおして展開されるからである。コロナ禍で新入生支援に立ち上がった学生自治会の事例は、“経験からの学び”の支援が新入生のこころの窮地を救い、新生活への見通しを与えた事例である。

初年次教育を推進するプレーヤーに、学生コミュニティを加えるのはいかがだろうか。私たち教員は、学生コミュニティがもつ無限の可能性をもっと信じ、待つこと・時には任せることを惜しんではいけない。学生の主体性に任せると、学生もきちんとそれを自覚して、学生自らで道を切り拓いていくことを確信した。

6. 謝辞

原稿作成にあたり、多大な協力をいただきました本学学部生の立田寛明さん、田中佑佳さん、時国玲羅さんに心から感謝いたします。